

平成20年度
第1回利根川水系渇水対策連絡協議会幹事会
(春季定例会)の開催結果について
記者発表資料

**利根川水系渇水対策連絡協議会幹事会(春季定例会)開催される
今後の対策等について確認**

1. 開催状況 日時：平成20年4月22日(火) 10:00～11:00
場所：さいたま新都心合同庁舎検査棟 7階会議室
協議会構成：国土交通省関東地方整備局、経済産業省関東経済産業局、
農林水産省関東農政局、東京都、千葉県、埼玉県、茨城県、
群馬県、栃木県、独立行政法人水資源機構
協議会の目的：利根川水系の渇水時における円滑な水需給の調整を図る。
2. 現状と今後の見通し(詳細は、別添概要書参照)
 - ・ダム貯水状況 平年を上回る貯水量(利根川上流8ダム：平年比109%、鬼怒川上流3ダム：平年比105%)
 - ・積雪の状況 奈良俣ダム地点で消雪、尾瀬沼地点の積雪深は、平年を下回る167cm(平年比87%)
 - ・今後の見通し 利根川上流ダム群は、今後の降雨状況にもよりますが、ほぼ満水になる見込みです。しかし、これからは水需要の多い時期になることから、降雨状況によっては、ダム貯水量が不足することも想定されます。
3. 今後の対策(詳細は、別添概要書参照)
 - ・ダム等水資源開発施設については、きめ細かな水運用を行っていく。
 - ・必要に応じて、節水協力の要請と取水制限等の機動的な対応を行っていく。

平成20年4月22日(火)
利根川水系渇水対策連絡協議会
(事務局：関東地方整備局河川部)

発表記者クラブ
埼玉県政記者クラブ、竹芝記者クラブ、横浜海事記者クラブ 神奈川建設記者会、東京都庁記者クラブ、千葉県政記者会 茨城県政記者クラブ、栃木県政記者クラブ、刀水クラブ

問		い	合	わ	せ	先
国土交通省	関東地方整備局	河川部				
〒330-9724	埼玉県さいたま市中央区新都心2-1	水政調整官 渡邊(内線) 3515				
	さいたま新都心合同庁舎2号館	水政課長 関根(内線) 3551				
電話(代	表) 048-601-3151	河川環境課長補佐 林(内線) 3652				
	(水政課夜間直通) 048-600-1334					
	(河川環境課夜間直通) 048-600-1336					

平成20年度第1回利根川水系渇水対策連絡協議会幹事会 (春季定例会) の開催結果について (概要)

1. ダムの貯水状況・積雪状況と今後の見通し

首都圏の水ガメである利根川上流8ダムと鬼怒川上流3ダムの4月21日時点の貯水量は、表のとおりであり、平年を上回る状況です。

	貯水量 (貯水率)	平年比	備 考
利根川上流8ダム (4月21日0時)	3億7,167万 ^m ³ (81%)	109%	平年を上回る (H4~H19平均)
鬼怒川上流3ダム (4月21日0時)	1億6,697万 ^m ³ (93%)	105%	平年を上回る (S60~H19平均)

今冬の利根川上流域の積雪状況は、表のとおりであり、奈良俣ダム地点で消雪となり、尾瀬沼地点で平年を下回る状況です。

	積雪深 (平年比)	累加降雪量 (平年比)	備 考
奈良俣ダム地点 (4月21日9時)	0cm 4月21日消雪 (昨年より9日遅い)	1,321cm (112%)	累加降雪量は平年を上回る (H3年~H19年の4月第5半旬末平均)
尾瀬沼地点 (4月21日9時)	167cm (87%)	欠 測 —————	平年を下回る (S29~H18年の4月第5半旬末平均値)

平成20年1月からの降水量は、表のとおりで、利根川栗橋上流域では平年を上回り、鬼怒川佐貫上流域では平年を下回っています。

	累加降水量	平年比	備 考
利根川栗橋上流域 (1月から4月20日)	290mm	119%	平年を上回る (S23~H19平均)
鬼怒川佐貫上流域 (1月から4月20日)	164mm	59%	平年を下回る (S47~H19平均)

今後、奥利根5ダム(矢木沢ダム、奈良俣ダム、藤原ダム、相俣ダム、藺原ダム)、草木ダム及び渡良瀬貯水池は、降雨と融雪水により満水になる見込みです。また、下久保ダムについては、現在平年の貯水量を上回っており、降雨の状況にもよりますが、ほぼ満水になる見込みです。

しかし、これからは水需要の多い時期になることから、降雨状況によっては、利根川上流8ダムの貯水量が不足することも想定されます。

2. 今後の対策

①今後、本年の利根川上流域の積雪状況や降雨、農業用水や都市用水の水利用を十分考慮して、既存施設等を広域的かつ効果的に活用し、きめ細かい運用を行っていきます。

このため、上流ダム群の貯水量の状況や融雪状況等の情報提供を引き続き、積極的に行っていきます。

②利根川渇水対策連絡協議会としては、現在のダム等の水供給能力が、首都圏の水需要の大きさに対して十分とはいえない状況にかんがみ、さらに幅広い広報活動を通じて節水の協力を要請していきます。また、取水制限等の調整が必要になった場合には、機動的な対応を行っていきます。

※ ダムの貯水量及び貯水率の情報を、電話応答サービスにより、リアルタイムに提供しています。どうぞご利用下さい。

・利根川上流8ダム 電話番号 027-255-5692
五十里ダム 電話番号 0288-78-0440
・鬼怒川上流3ダム 川治ダム 電話番号 0288-78-0908
川俣ダム 電話番号 0288-96-0288

※ ホームページでもダムの情報をお届けしています。

<http://www.ktr.mlit.go.jp/> (首都圏の水資源情報 他)

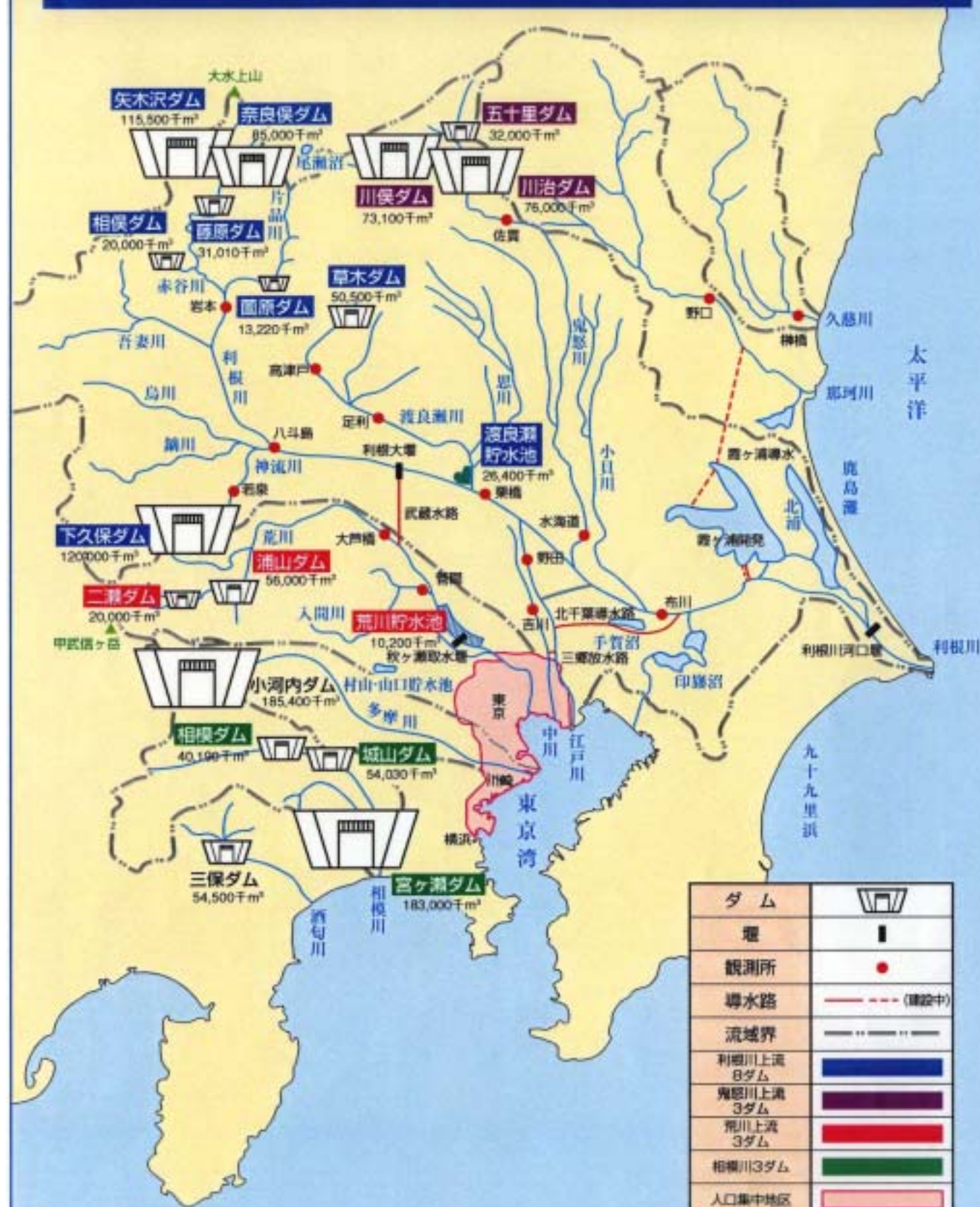
利根川水系渇水対策連絡協議会委員

会 員	国土交通省	関東地方整備局長
委員	国土交通省	関東地方整備局副局長
〃	国土交通省	関東地方整備局河川部長
〃	経済産業省	関東経済産業局地域経済部長
〃	農林水産省	関東農政局農村計画部長
〃	東京都	都市整備局都市づくり政策部長
〃	〃	建設局河川部長
〃	〃	水道局総務部長
〃	千葉県	県土整備部長
〃	〃	総合企画部長
〃	埼玉県	県土整備部長
〃	〃	企画財政部長
〃	茨城県	県土木部長
〃	〃	企画部長
〃	群馬県	県企画部長
〃	〃	県土整備部長
〃	栃木県	県土整備部長
〃	独立行政法人	水資源機構理事（管理担当）
〃	〃	管理事業部長

利根川水系渇水対策連絡協議会幹事

幹事長	国土交通省	河川部	広域水管理官
幹事	国土交通省	河川部	情報管理官
〃	国土交通省	河川部	水政課長
〃	〃	〃	河川計画課長
〃	〃	〃	河川環境課長
〃	〃	〃	河川管理課長
〃	経済産業省	地域経済部	地域経済課産業立地室長
〃	農林水産省	農村計画部	農村振興課長
〃	国土交通省	利根川上流	河川事務所長
〃	〃	利根川下流	河川事務所長
〃	〃	江戸川	河川事務所長
〃	〃	霞ヶ浦	河川事務所長
〃	〃	渡良瀬川	河川事務所長
〃	〃	下館	河川事務所長
〃	〃	高崎	河川国道事務所長
〃	〃	利根川ダム	統合管理事務所長
〃	〃	鬼怒川ダム	統合管理事務所長
〃	〃	荒川上流	河川事務所長
〃	〃	京浜	河川事務所長
〃	東京都建設局	河川部	計画課長
〃	〃	都市整備局	都市づくり政策部副参事（水資源・建設副産物担当）
〃	〃	水道局	総務部施設計画課長
〃	千葉県	県土整備部	河川環境課長
〃	〃	総合企画部	水政課長
〃	埼玉県	県土整備部	河川砂防課長
〃	〃	企画財政部	土地水政策課長
〃	茨城県	県土木部	河川課長
〃	〃	企画部	水・土地計画課長
〃	群馬県	県土整備部	河川課長
〃	〃	企画部	土地・水対策室長
〃	栃木県	県土整備部	河川課長
〃	独立行政法人	水資源機構	管理事業部管理企画課長
〃	〃	利根導水	総合事業所長

関東地方の主要な河川と水資源開発施設



注：ダム名下の添え書きは貯水容量

利根川上流ダム群等の現況と今後の対策について



満水に向け約70%貯留した矢木沢ダム状況（平成20年4月18日撮影）

平成20年4月22日

関東地方整備局

1. 利根川上流ダム群等の現況

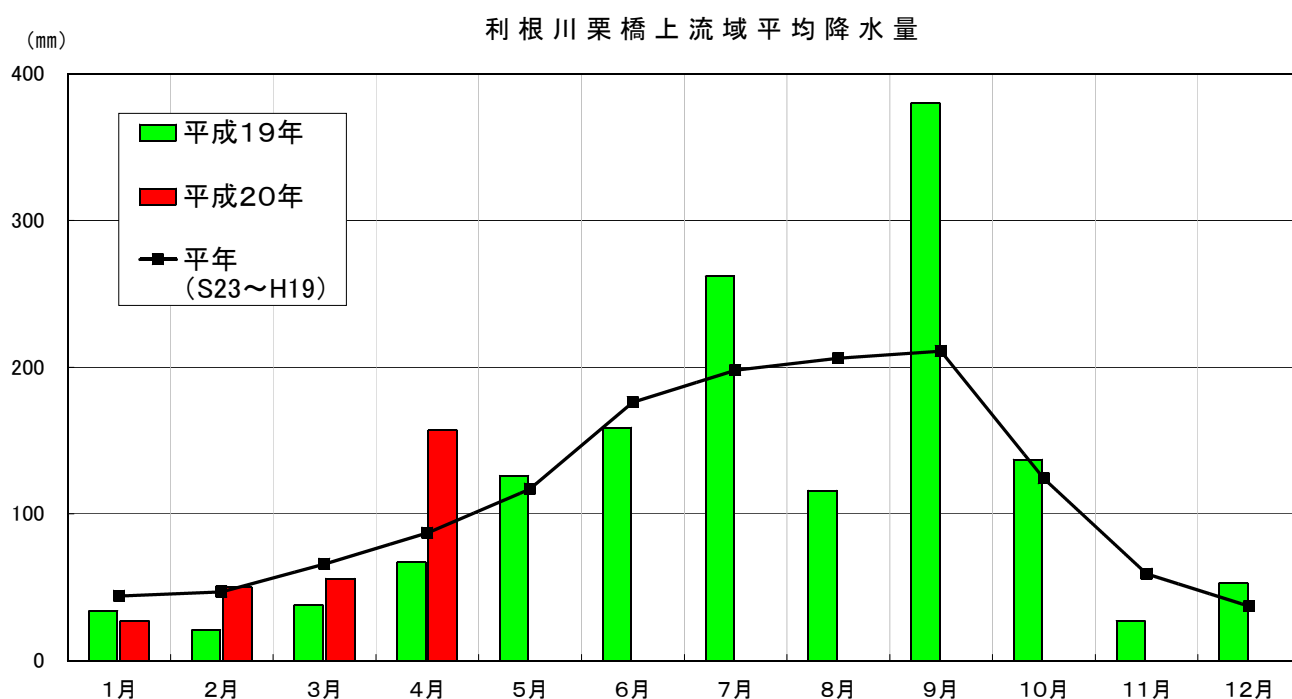
1) 利根川水系

(1) 降水量

平成19年の利根川栗橋上流域の降水量は、1月から5月下旬まで少雨傾向となっていました。5月下旬からの降雨により、5月、6月は平年並みとなりました。7月以降の月間降水量は平年比（S23～H18）45%～180%と変動が大きい傾向を示しましたが、年間平均では1,420mmとほぼ平年並みの降水量となりました。

平成20年に入ると少雨傾向で、1月と3月は、それぞれ27mm（平年44mm）、56mm（平年66mm）と、平年を下回りました。4月に入ってから、4月7日から8日及び17日から18日にかけて発達した低気圧により大雨となりました。そのうち、4月8日の降水量44.8mm/日は、4月における近10ヶ年観測記録を更新し、1月から4月20日までの累加降水量は290mm（平年1月～4月までの累加244mm）と平年の119%となっております。（図－1、表－1参照）

図－1



表－1 利根川栗橋上流域平均降水量

	単位 (mm)												合計	摘要
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
昭和62年	22	33	62	14	89	91	204	186	252	73	39	26	1,091	利根川夏渇水
平成2年	31	66	71	119	58	74	118	193	326	143	183	31	1,413	"
平成6年	27	50	52	23	139	107	104	153	346	87	26	29	1,143	"
平成8年	26	35	68	47	98	117	155	78	217	80	55	23	999	利根川冬夏渇水
平成9年	33	33	59	74	179	173	170	167	206	14	94	20	1,222	利根川冬渇水
平成13年	79	35	75	23	136	176	116	366	321	173	46	23	1,569	利根川夏渇水
平成19年	34	21	38	67	126	159	262	116	380	137	27	53	1,420	
平年 (S23~H19)	44	47	66	87	117	176	198	206	211	124	59	37	1,372	
平成20年	27	50	56	157									290	
平年比 (%)	61	106	85	180									21	

平成20年4月20日まで

※. 利根川取水制限実施月（一時緩和含む）
 ※. 栗橋上流域面積 8,588km²

(2) 奈良俣ダム地点及び尾瀬沼地点の積雪状況

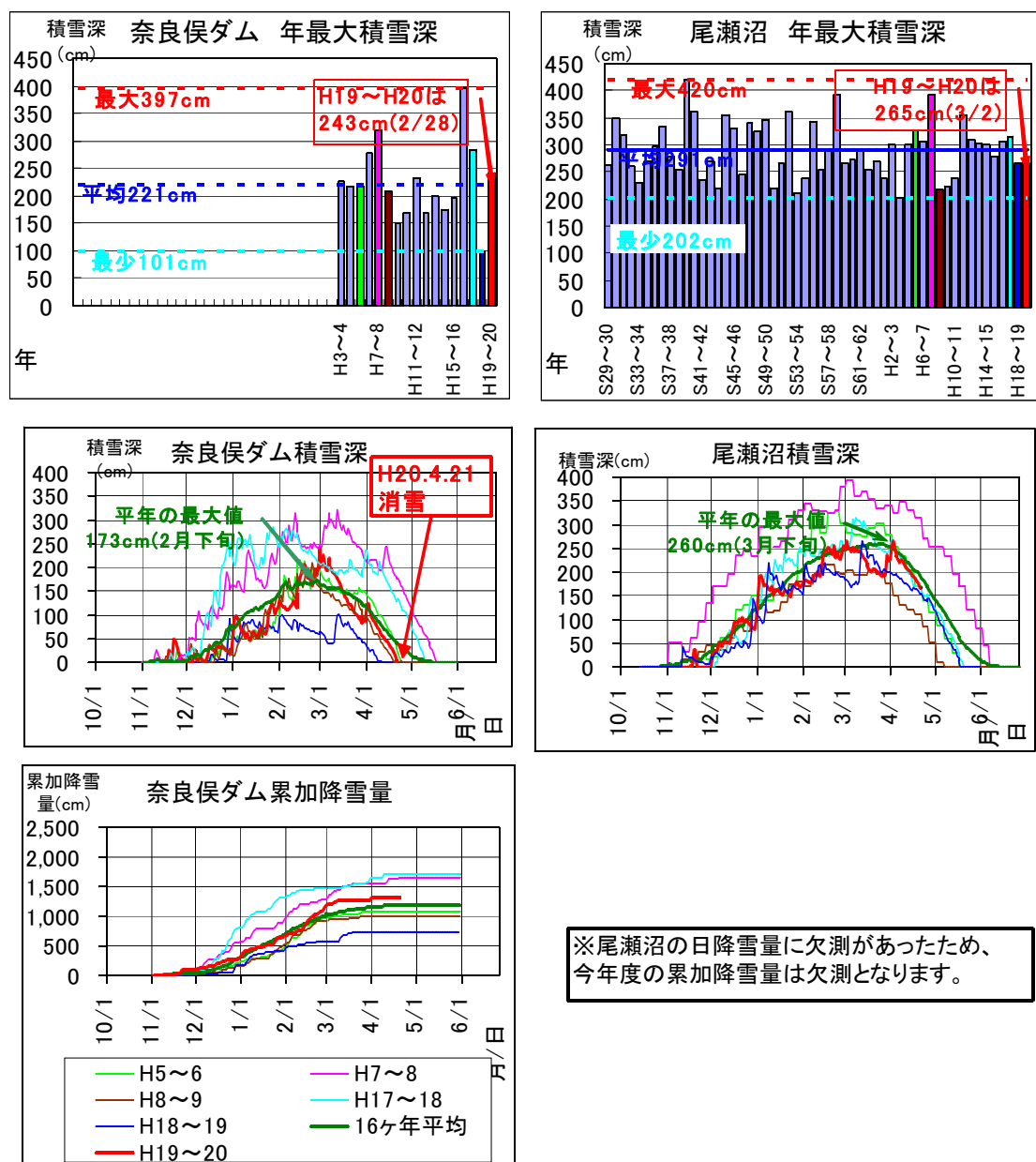
利根川上流域の降雪状況は、2月13日までの積雪深が奈良俣ダム地点及び尾瀬沼地点において平年を下回っていましたが、2月14日からの降雪により、両地点とも平年値を上回りました。今期の最大積雪深は奈良俣ダム地点で243cm、尾瀬沼地点で265cmと平年並み程度となりました。

平成20年4月21日9時現在の奈良俣ダム地点の積雪深は0cm(21日消雪、昨年より9日遅い)、尾瀬沼地点では167cm(平年の87%と下回る)となっています。(表-2、図-2参照)

表-2 奈良俣ダム地点及び尾瀬沼地点の積雪深・累加降雪量図

観測所名	時 点	日降雪量	積雪深	今期最大積雪深	累加降雪量
奈良俣 ダム地点	平成20年4月21日9時現在	0cm	0cm (21日消雪)	243cm(2/28)	1,321cm (平年比112%)
	H3年度～H19年の 4月第4半旬末平均値		42cm		1,180cm
尾瀬沼 地点	平成20年4月21日9時現在	0cm	167cm (平年比87%)	265cm(3/2)	欠測 (日降雪量に欠測があったため)
	S29年度～H19年の 4月第4半旬末平均値		192cm		1,381cm

図-2 奈良俣ダム地点及び尾瀬沼地点の積雪深・累加降雪量図



※過去のデータは半旬末の値

平成20年4月21日9時現在

(3) 各観測所の積雪深の状況

奥利根の積雪深は、標高の低い観測所では、消雪となっていますが、標高の高い観測所では、平年の50～130%の積雪となっており、昨年と同等以上の積雪となっています。

(図-3、図-4参照)

図-3 積雪観測所位置図

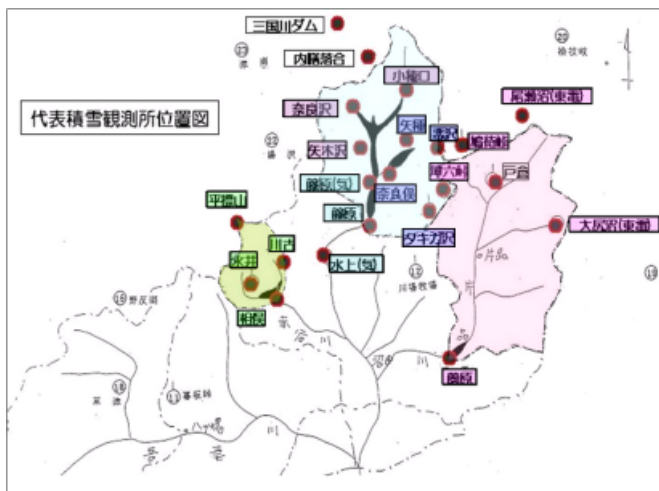
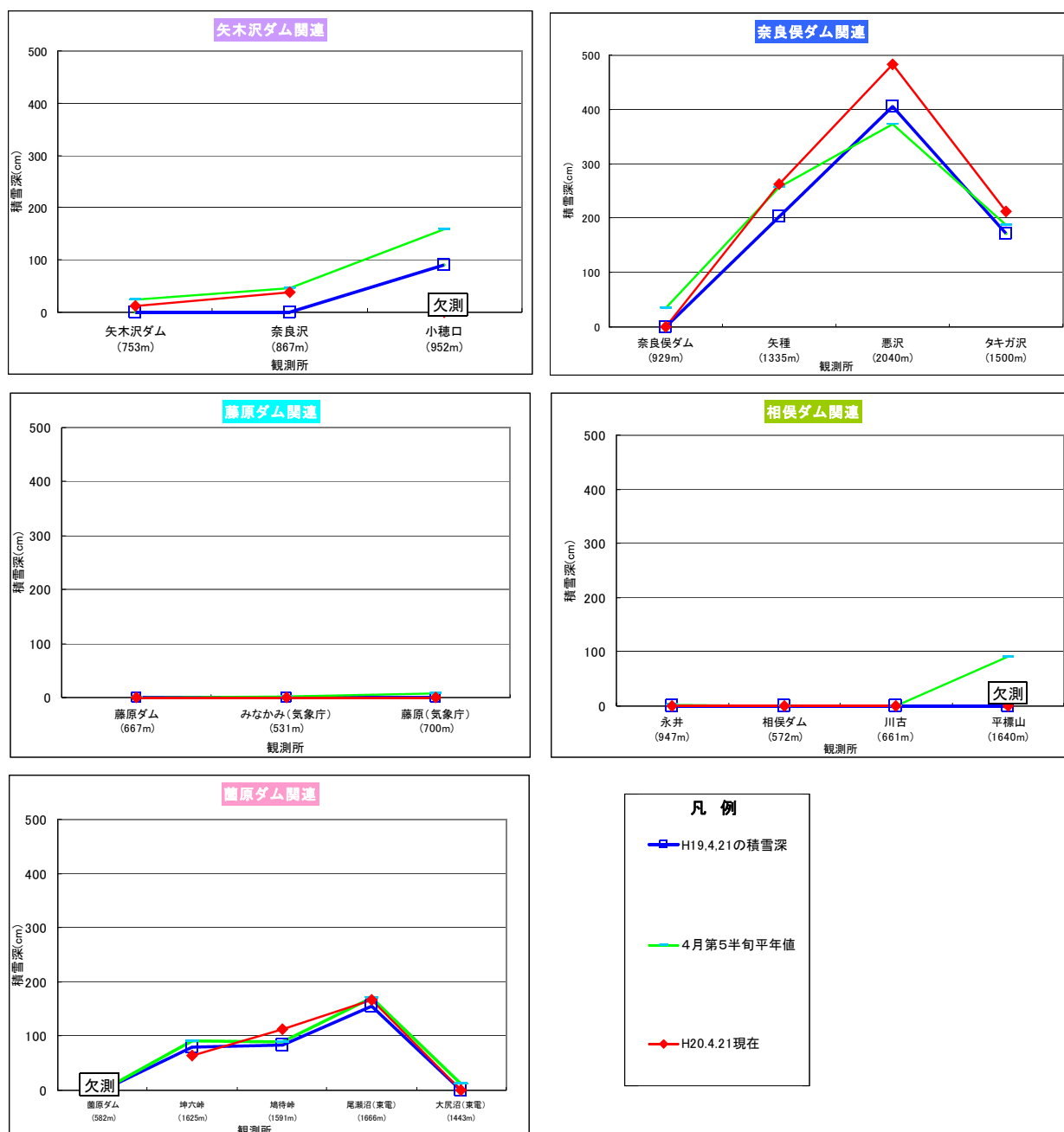


図-4 各観測所の積雪深状況

平成20年4月21日現在



(4) 利根川上流ダム群の貯水状況

平成19年の利根川上流8ダムは、平成18年12月の降雨によりこの時期としては平成4年以降で最も多い貯水量となりましたが、1月から5月下旬までの少雨と中標高部の少雪の影響から、4月、5月のダムへの流入が少ない状況でした。このため、北千葉導水路等下流施設の活用や鬼怒川上流ダム群と連携した運用を行うことにより、利根川上流8ダムの貯水量の温存に努めましたが、貯水量は回復せず、例年満水となる5月15日から6月10日迄については、8ダム体制となった平成4年以降で最も少ない貯水量となりました。8月上旬までは、ほぼ平年より多い貯水量で運用していましたが、梅雨明け後の酷暑と少雨傾向から、夏期に矢木沢ダム1個相当の約1億2,000万 m^3 を補給しました。その後、9月6日に関東地方に直撃した台風9号や台風20号の降雨により貯水量は回復したものの、11月からの少雨傾向で平年よりも10日程度早い平成19年12月1日から補給を開始しました。

平成20年に入っても少雨傾向で冬期のダム補給は、一日当たり最大約350万 m^3 、総量は矢木沢ダム1.5個分に相当する約1億7,000万 m^3 を補給しました。

その後、4月7日からの発達した低気圧による大雨とその後の降雨や融雪水の貯留に努め、平成20年4月21日0時現在の貯水量は、3億7,167万 m^3 （常時満水容量4億6,163万 m^3 に対して81%、平年の貯水量3億4,206万 m^3 に対して109%）と、平年を上回っています。（表－3、図－5参照）

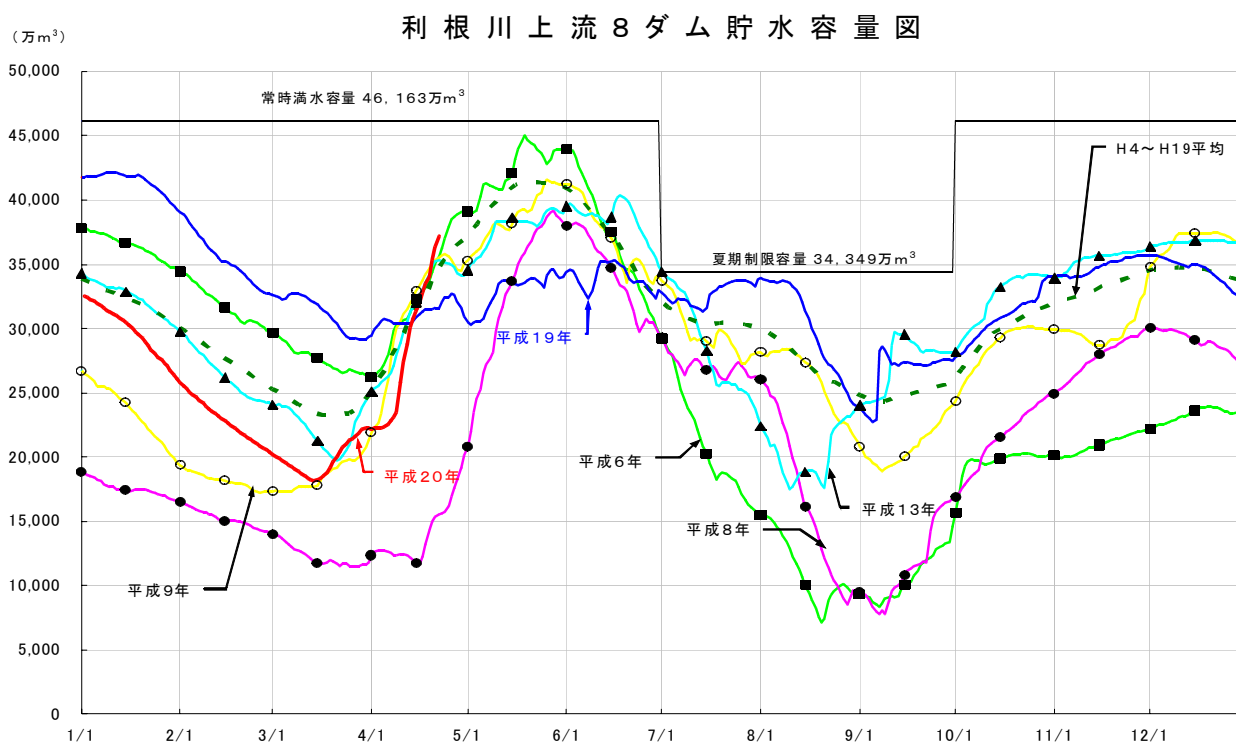
表－3 利根川上流8ダム貯水量

平成20年4月21日0時現在

ダム名	有効容量 (万 m^3)	貯水量 (万 m^3)	貯水率 (%)	前日補給量 (万 m^3 /日)	平年比 (%)
矢木沢ダム	11,550	9,075	79	-375	126
奈良俣ダム	8,500	5,784	68	-189	86
藤原ダム	3,101	2,618	84	-37	120
相俣ダム	2,000	1,989	99	0	114
藺原ダム	1,322	1,197	91	7	126
下久保ダム	12,000	10,211	85	-283	115
草木ダム	5,050	4,919	97	11	110
渡良瀬貯水池	2,640	1,374	52	0	68
8ダム合計	46,163	37,167	81	-866	109

1. 有効容量は、常時満水容量。
2. 貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合。
3. 前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差。（プラスの場合はダムの集水区域からダムへ流入してくる水より、ダムから放流する量が多い）

図－5



(5) 北千葉導水路の運用

平成19年度の4月から5月にかけては、利根川の流況が悪く、8ダム貯水量を温存するため、4月から6月にかけて運用を図りました。また、平成20年の2月においても、8ダムからの補給が続き、補給量を温存するため、江戸川の流量低下時に利根川から最大13m³/sの導水を実施し、江戸川の取水の安定を図りました。なお、2月と3月の導水量は過去最高となり、平成19年度の導水総量も過去最高の約3,300万m³となりました。(図-6、図-7参照)

図-6

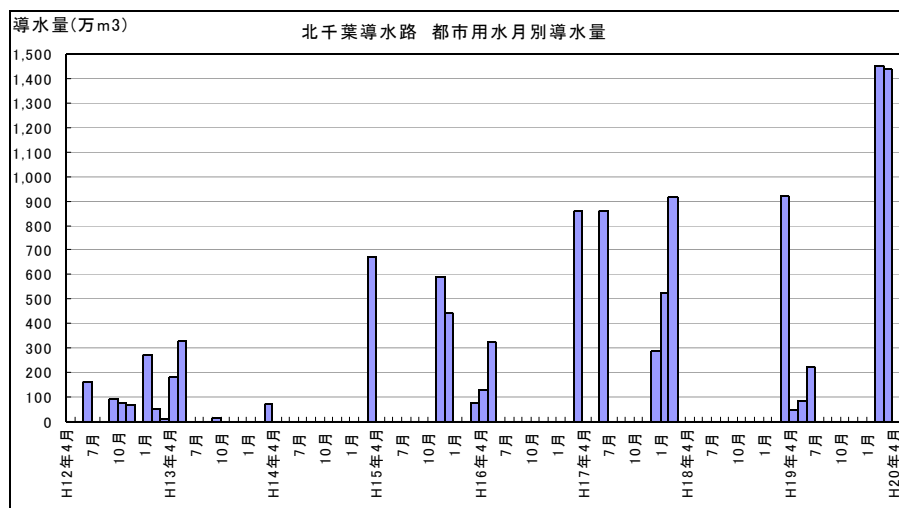
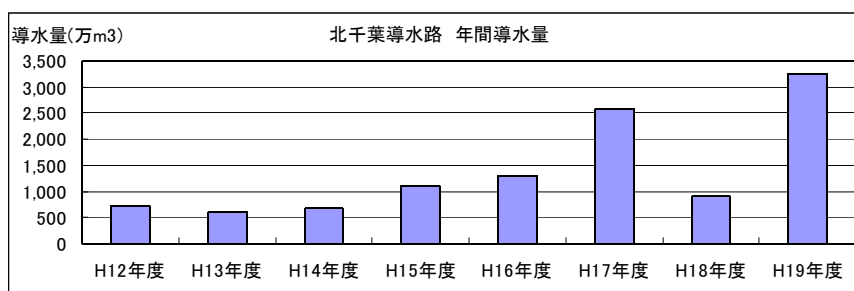


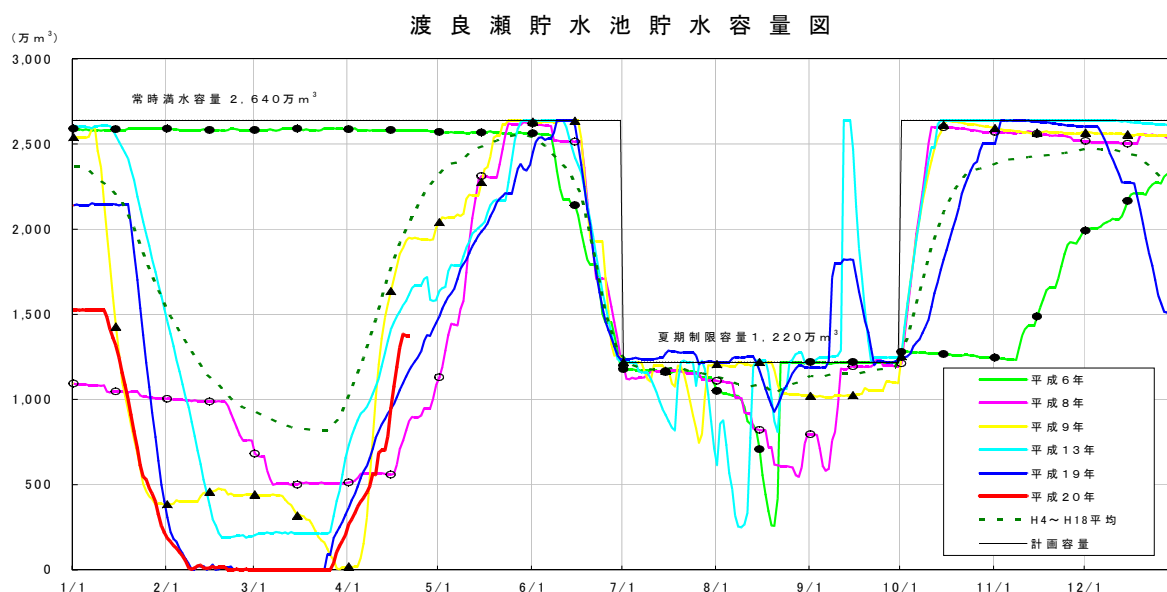
図-7



(6) 渡良瀬貯水池の現状

渡良瀬貯水池は水質改善等のため、平成9年から利根川の流況を見ながら「干し上げ」を行っています。今年もダム補給が多くなる冬期について貯水量を有効に活用しつつ干し上げを行い、現在は貯留を行っています。平成20年4月21日0時現在の貯水量は、1,374万m³、常時満水容量2,640万m³に対して52%、平年の貯水量2,026万m³に対して68%と平年を下回っています。(図-8参照)

図-8



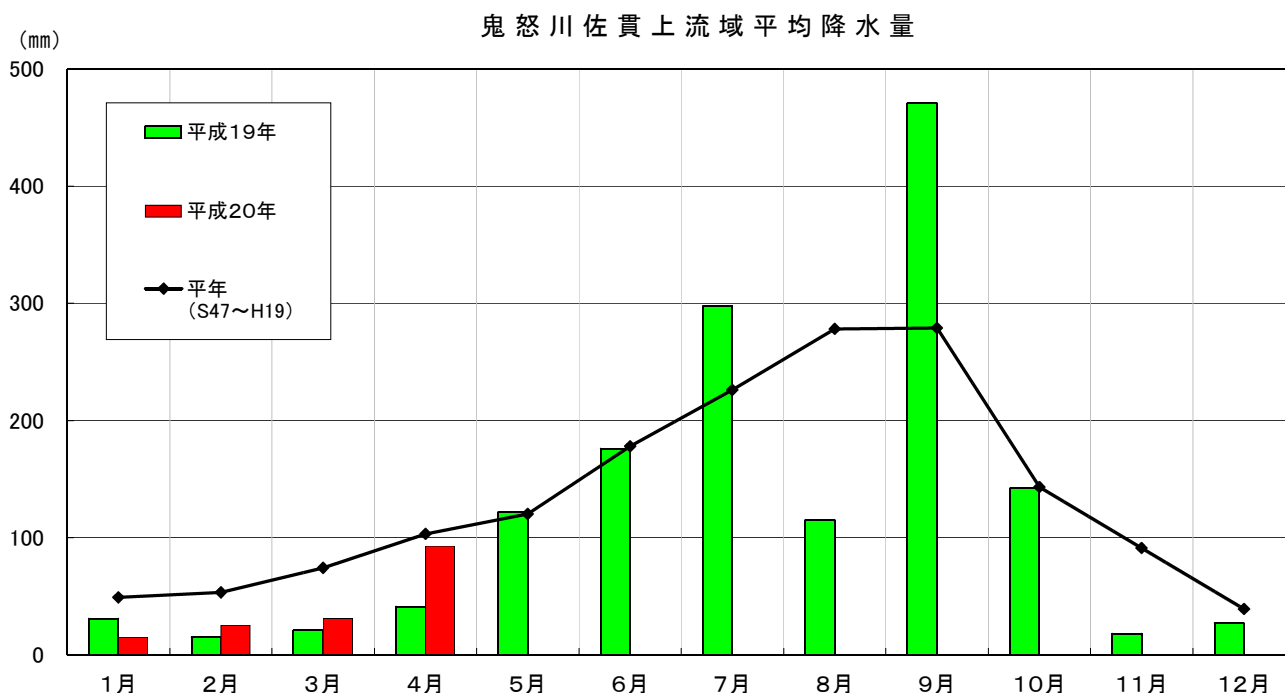
2) 鬼怒川水系

(1) 降水量

平成19年の鬼怒川佐貫上流域平均降水量は、1月から6月累加降水量で、昭和47年以降の36年間で3番目に少ない降水量となりました。それ以降も7月と9月を除き月降水量は平年を下回り、年間降水量が平年の90%となりました。

平成20年に入ると引き続き少雨で、1月、2月、3月は、平年比が50%未満と、大きく下回りました。4月も現時点において平年を下回り、佐貫上流域では1月から4月20日までの累加降水量が164mm（平年1月～4月までの累加279mm）と平年の59%となっています。（図－9、表－4参照）

図－9



表－4 鬼怒川佐貫上流域平均降水量

	単位 (mm)												
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合 計
昭和62年	21	34	127	21	121	134	186	156	321	121	38	21	1,301
平成2年	35	89	79	164	53	111	109	338	394	195	220	66	1,853
平成6年	15	118	77	21	126	103	159	218	551	122	25	48	1,583
平成8年	46	69	79	67	113	103	176	109	211	66	65	36	1,140
平成9年	46	55	74	52	145	272	234	114	274	17	215	27	1,525
平成13年	56	13	34	13	116	185	147	484	610	225	62	35	1,980
平成19年	31	15	21	41	122	176	298	115	471	142	18	27	1,477
平年 (S47～H19)	49	53	74	103	120	178	226	278	279	143	91	39	1,633
平成20年	15	25	31	93									164
平年比 (%)	31	47	42	90									10

平成20年4月20日まで

※. 鬼怒川佐貫上流域面積 940km²

(2) 鬼怒川上流ダム群の貯水状況

平成19年の鬼怒川上流3ダムの貯水量は、平成18年12月の降雨によりこの時期としては過去最高の貯水量となりましたが、それ以降は、ほぼ平年並みの貯水量で推移しました。

平成20年も1月以降は、ほぼ平年並の貯水量で推移し、平成20年4月21日0時現在の貯水量は、1億6,697万 m^3 （常時満水容量1億8,034万 m^3 に対して93%、平年の貯水量1億5,857万 m^3 に対して105%）と、平年を上回っています。（表-5、図-10参照）

表-5

鬼怒川上流3ダム貯水量

平成20年4月21日0時現在

ダム名	有効容量 (万 m^3)	貯水量 (万 m^3)	貯水率 (%)	前日補給量 (万 m^3 /日)	平年比 (%)	適用
五十里ダム	3,123	2,737	88	17	99	
川俣ダム	7,311	7,113	97	38	100	
川治ダム	7,600	6,847	90	-101	114	
3ダム合計	18,034	16,697	93	-46	105	

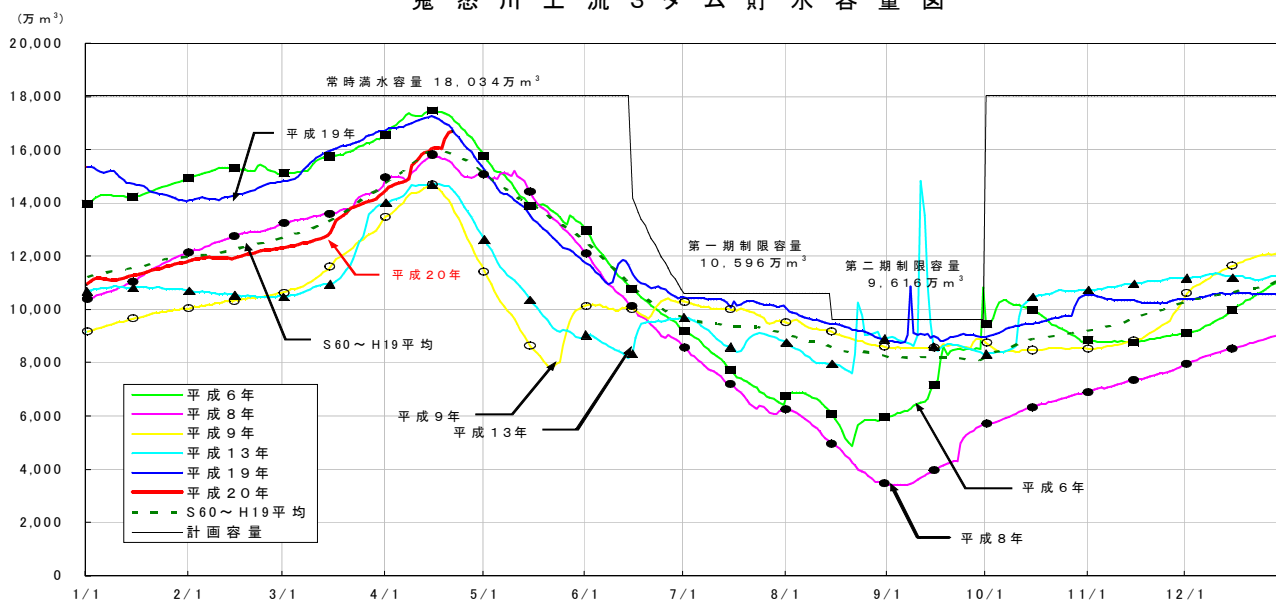
1. 有効容量は、常時満水容量。

2. 貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合。

3. 前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差。（プラスの場合はダムの集水区域からダムへ流入してくる水より、ダムから放流する量が多い）

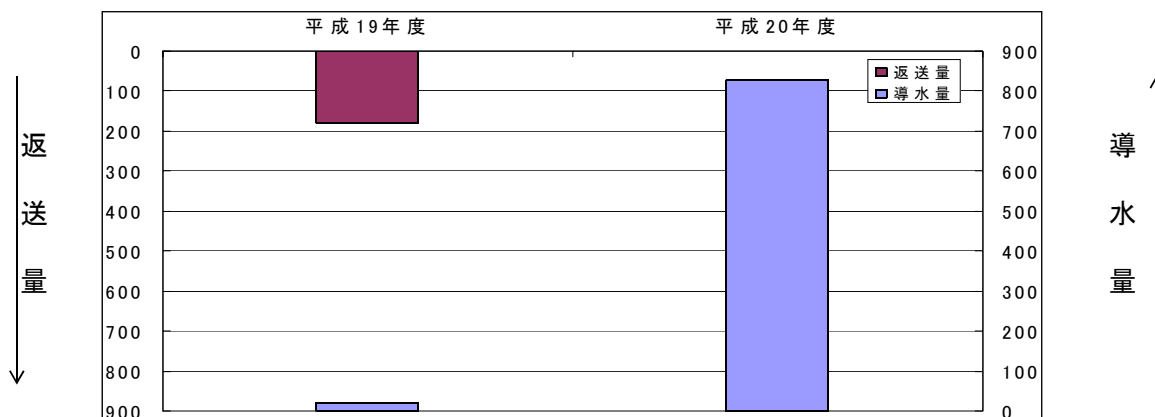
図-10

鬼怒川上流3ダム貯水容量図



平成19年3月1日に運用開始した鬼怒川上流ダム群連携事業については、平成20年4月21日までに五十里ダムから川治ダムへの導水による有効貯留が約460万 m^3 、川治ダムから五十里ダムへの返送による下流維持放流量が約180万 m^3 となっており、施設がなかったときに無効放流となっていた水をダム下流の流況改善として有効活用を図っております。（図-11参照）

図-11 鬼怒川ダム連携事業の年間導水量 単位：万 m^3



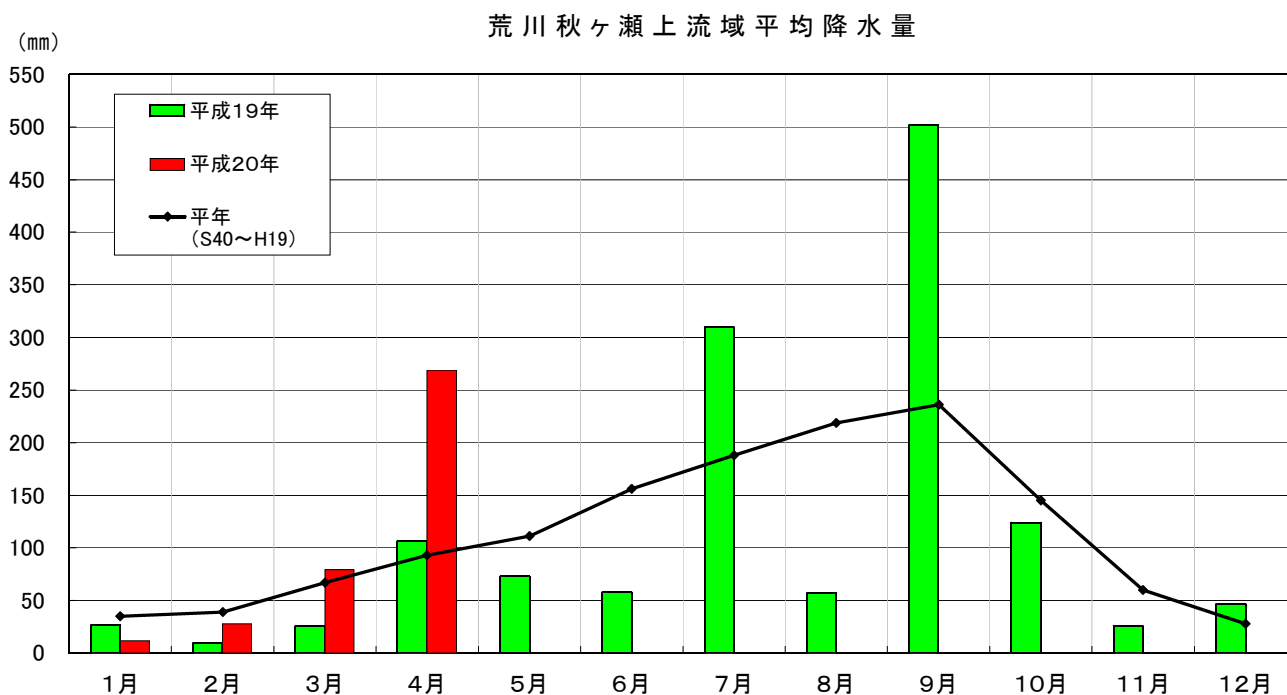
3) 荒川水系

(1) 降水量

平成19年の荒川秋ヶ瀬上流域の降水量は、1月から6月までは少雨傾向となっておりましたが、9月の台風9号による大雨の影響で、昭和40年からの43年間の9月降水量観測記録を更新し、年間降水量は、ほぼ平年並みとなりました。

平成20年に入ると、1月と2月は、それぞれ12mm（平年35mm）、28mm（平年39mm）と、いずれも平年を下回りましたが、3月からは平年を上回り、4月に入ってから4月7日から8日及び17日から18日にかけて発達した低気圧により大雨となりました。そのうち4月8日は、4月における月間降水量の平年値（昭和40年から平成19年の平均値）93mmを上回る121.6mm/日を記録しました。1月から4月20日までの累加降水量は388mm（1月～4月までの平年累加降水量234mm、平年比170%）となっています。（図－12、表－6参照）

図－12



表－6 荒川秋ヶ瀬上流域平均降水量

	単位 (mm)												
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合 計
昭和62年	16	29	66	8	66	88	146	103	280	91	46	36	975
平成2年	22	67	83	138	48	55	77	228	473	134	301	31	1,657
平成6年	42	44	64	25	111	103	152	142	344	119	21	24	1,191
平成8年	1	22	55	62	80	47	204	32	314	74	57	17	965
平成9年	21	13	57	70	187	168	148	72	204	7	87	21	1,055
平成13年	98	17	98	30	179	120	69	279	444	247	67	9	1,657
平成19年	27	10	26	107	73	58	310	57	502	124	26	47	1,367
平年 (S40-H19)	35	39	67	93	111	156	188	219	236	145	60	28	1,377
平成20年	12	28	79	269									388
平年比 (%)	34	72	118	289									28

平成20年4月20日まで

※. 荒川秋ヶ瀬上流域面積 2,021km²

(2) 荒川3ダムの貯水状況

平成19年の荒川3ダムは、前年から過去最高の貯水量となっていました。6月から7月及び8月から9月にかけては補給量が多く平年を割る状況もありました。しかし、台風4号及び9号の出水により貯水量が平年並みに回復しました。その後10月も少雨傾向や工事制限などで平年を下回っていましたが、台風20号の出水で貯水量が回復し、以降は平年並みで推移しました。

平成20年に入ってから、平年をやや上回る貯水量で推移し、平成20年4月21日9時現在の貯水量は、7,615万 m^3 （常時満水容量8,620万 m^3 に対して88%、平年の貯水量6,517万 m^3 に対して117%）と平年を上回っています。

（表－7、図－13参照）

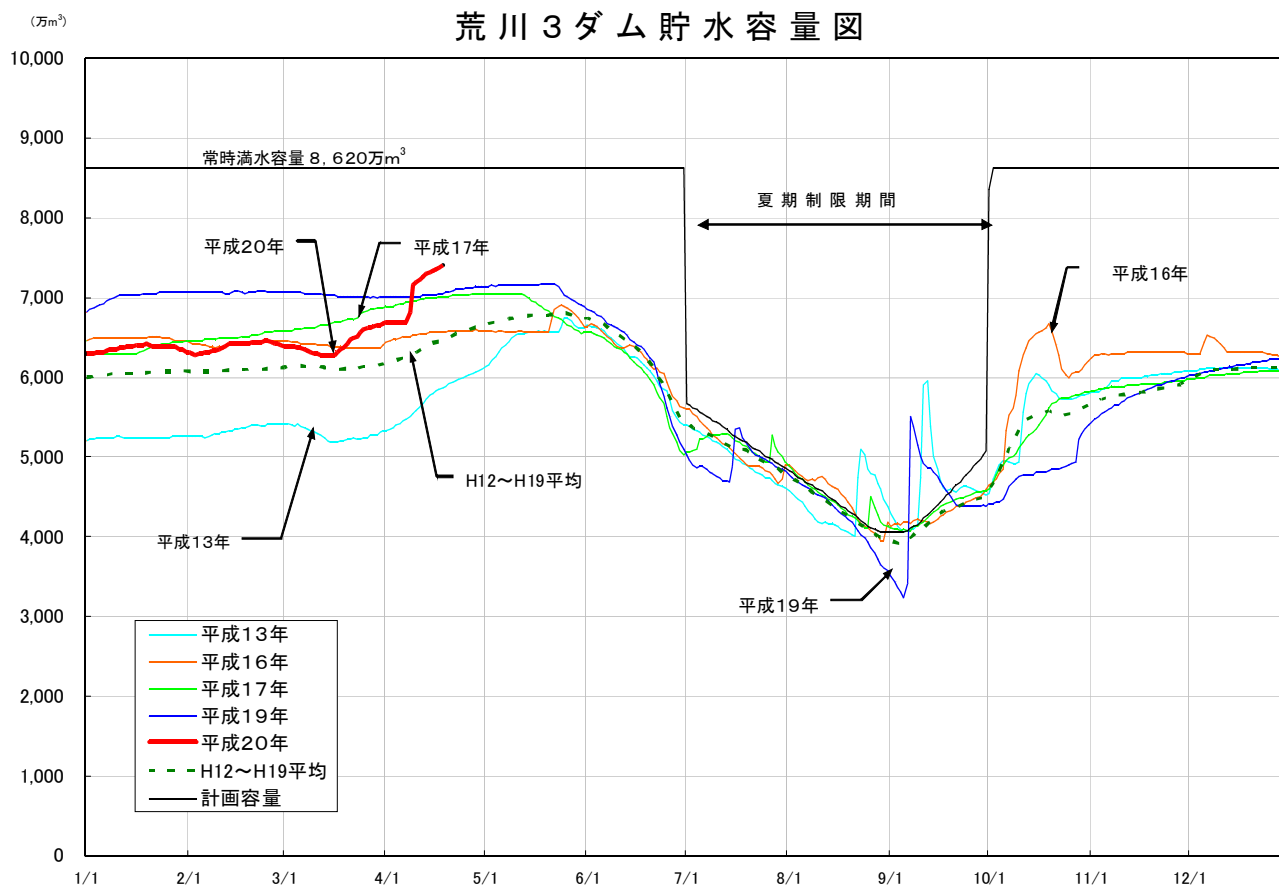
表－7 荒川3ダム貯水量

平成20年4月21日9時現在

ダム名	有効容量 (万 m^3)	貯水量 (万 m^3)	貯水率 (%)	前日補給量 (万 m^3 /日)	平年比 (%)
二瀬ダム	2,000	1,742	87	22	122
荒川貯水池	1,020	1,020	100	0	106
浦山ダム	5,600	4,853	87	-48	117
3ダム合計	8,620	7,615	88	-26	117

1. 有効容量は、常時満水容量。
2. 貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合。
3. 前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差。（プラスの場合はダムの集水区域からダムへ流入してくる水より、ダムから放流する量が多い）

図－13



4) 多摩川水系

(1) 降水量

平成19年の小河内ダム上流域の降水量は、9月の台風9号などの影響から平年を上回りました。

平成20年に入り、1月、2月、3月は、それぞれ18mm(平年45mm)、53mm(平年56mm)、71mm(平年90mm)といずれも平年を下回っていましたが、その後、4月に入ってからまとまった降雨があり、1月から4月20日までの累加降水量は370mm(平年1月～4月までの累加301mm)と平年の123%となっています。(図-14、表-8参照)

図-14

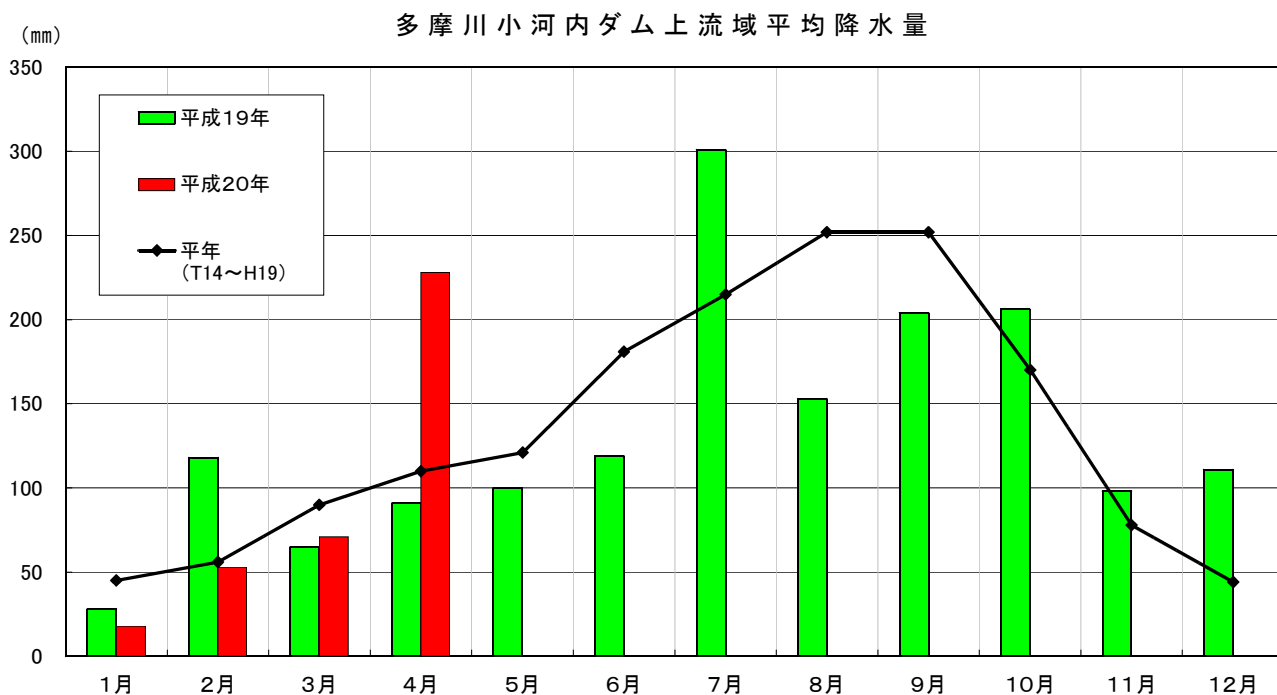


表-8 多摩川小河内ダム上流域降水量

	単位 (mm)												
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
平成19年	39	34	53	121	119	99	317	69	667	124	21	53	1,716
平年(T14-H19)	45	56	90	110	121	181	215	252	252	170	78	44	1,614
平成20年	18	53	71	228									370
平年比(%)	40	95	79	207									23

平成20年4月20日まで

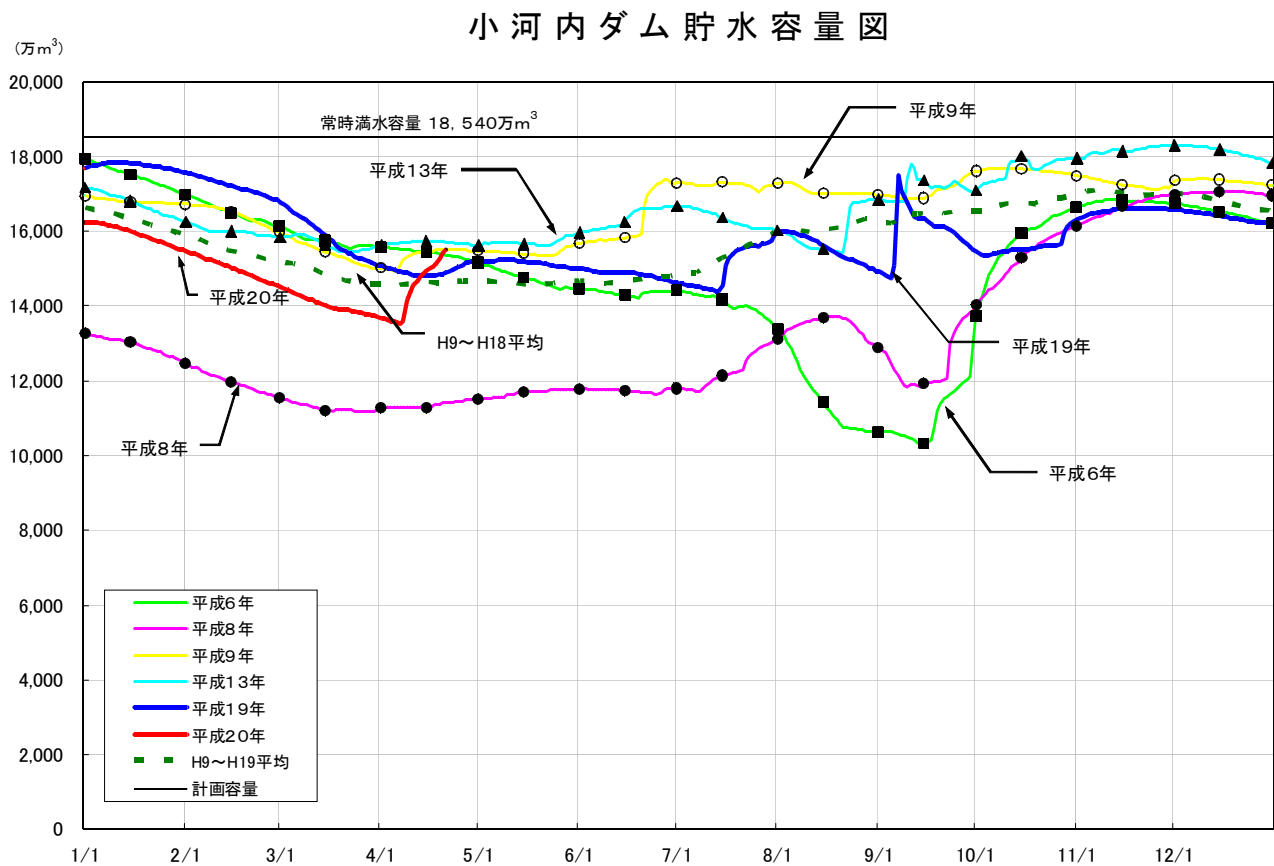
※. 端数処理の関係で、各月の和と合計値は一致しないことがあります。

※. 小河内上流域面積 262km²

(2) 小戸内ダムの貯水状況

平成20年の小戸内ダムは、1月から3月までの少雨の影響もあり、平年を下回る貯水量で推移していました。しかし4月に入ってから降雨によって回復し、平成20年4月21日7時現在で約1億5,529万 m^3 （常時満水容量1億8,540万 m^3 に対して貯水率84%、平年の貯水量約1億4,615万 m^3 に対して106%）と平年並みとなっています。（図-15参照）

図-15



2. 今後の見通し及び対策（案）

（１）見通し

- ①. 平成２０年４月１８日発表の気象庁の１か月予報によると、４月１９日から５月１６日の関東甲信地方の降水量については、「平年並」となっており、３月２５日発表の気象庁の３か月予報によると、降水量は、５月は「平年並」、６月は「平年並み」となっています。

１か月予報（平成２０年４月１８日発表）

＜向こう１か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）＞

【気 温】 関東甲信地方	10	30	60
【降 水 量】 関東甲信地方	30	40	30
【日照時間】 関東甲信地方	30	40	30

凡例： ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

３か月予報（平成２０年３月２５日発表）

【降 水 量】

〔関東甲信地方〕

３か月	30	40	30
４月	40	30	30
５月	30	40	30
６月	30	40	30

凡例： ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

- ②. 利根川上流５ダムは、毎年４月から５月にかけて、降雨と融雪水により貯水量を大きく回復する時期となっており、例年では５月の中旬にほぼ満水となります。

今年は、ダムの水源となる山岳部では、現時点において平年を下回る積雪ではあるものの、貯水状況と今後の降雨や融雪水により、奥利根５ダム（矢木沢ダム、奈良俣ダム、藤原ダム、菌原ダム、相俣ダム）、草木ダム及び渡良瀬貯水池は満水となる見込みです。

また、４月上旬まで平年を下回っていた下久保ダムについては、４月７日から８日及び１７日から１８日にかけて発達した低気圧による大雨により、現在平年の貯水量を上回っており、今後の降雨状況にもよりますが、ほぼ満水になる見込みです。しかし、これからは水需要の多い時期になることから、今後の降雨状況によっては、利根川上流８ダムの貯水量が不足することも想定されます。

- ③. 鬼怒川上流３ダムは、４月１５日に五十里ダム、川俣ダムがほぼ満水、川治ダムは平年を上回る貯水量となり、現在は下流の農業用水の需要を確保するための補給を実施しております。今後も水需要に対して必要な水量を確保するためダムからの補給を行っていきませんが、今後の降雨状況によっては、貯水量が不足することも考えられます。

（２）対 策（案）

- ① [利根川水系における上流ダム群の貯水量の確保]

今後、本年の利根川上流域の積雪状況や降雨、農業用水や都市用水の水利用を十分考慮して、既存施設等を広域的かつ効果的に活用し、きめ細かい運用を行っていきます。

このため、上流ダム群の貯水量の状況や融雪状況等の情報提供を引き続き、積極的に行っていきます。

- ② [利根川水系渇水対策連絡協議会の取り組み]

利根川渇水対策連絡協議会としては、現在のダム等の水供給能力が、首都圏の水需要の大きさに対して十分とはいえない状況にかんがみ、さらに幅広い広報活動を通じて節水の協力を要請していきます。また、取水制限等の調整が必要になった場合には、機動的に行っていきます。

3. 非洪水期における工事制限水位等について

工事主体	ダム名	工事名	工事概要等	工事期間											
				平成20年								平成21年			
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利根川上流ダム群	藤原ダム	H19 藤原ダム表面取水設備スクリーン修繕工事	経年劣化により腐食の著しい取水塔スクリーンの交換、受桁の塗装を実施する。	3/4										1/30	
		制限貯水位 EL.634.0m 制限期間 平成20年10月1日から平成20年11月25日													
	相俣ダム	相俣ダム湖法面処理工事	法面の崩落を防止するための対策工事を実施する。				7/20								3/30
		制限貯水位 EL.543.0m 制限期間 平成20年10月1日から平成21年3月25日													
	蘭原ダム	揚船設備改修工事	経年劣化により老朽化したレール交換を実施する。					9/1					12/15		
		制限貯水位 EL.547.0m 制限期間 平成20年11月10日から平成20年11月30日													
利根川上流	渡良瀬遊水池	干し上げ	水質環境改善のため、貯水池内の水位を低下させ干し上げを実施する。												
		* 干し上げ期間は、昨年同様の約40日間を予定している。 制限貯水位 Y.P.+8.5m（最低水位） 制限期間 干し上げ期間：2月中旬～3月下旬程度													

工事主体	ダム名	工事名	工事概要等	工事期間											
				平成20年								平成21年			
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
鬼怒川上流ダム群	五十里ダム	五十里ダムクレストゲート塗装工事	経年劣化によるゲート本体への影響を回避するため塗装工事を実施する。					8/1							
		制限貯水位 EL.552.0m 制限期間 平成20年10月1日から平成20年12月31日													
	川俣ダム	川俣ダム主放流設備修繕工事	主放流設備の機能保全のため、ローラ整備、塗装、充水装置の交換を実施する。			6/1									3/31
		制限貯水位 EL.965.0m 制限期間 平成20年10月1日から平成21年3月10日													
	川治ダム	堆砂除去工事	貯水池内の堆砂掘削工事を実施する。												
		制限貯水位 EL.594.0m 制限期間 平成20年10月1日から平成20年11月30日 (堆砂除去期間：7月1日から11月30日)													